

平成19年9月26日

鯖江市のコミュニティバスのこれまでの取り組み経緯

鯖江市では、高齢者および体の不自由な方などの交通弱者を対象として、市内の主要な公共施設への交通手段となる「福祉バス」を、平成10年11月30日から運行開始しました。その後、運行ルート拡大や利用者制限の緩和を行いながら利便性の向上を図ってきましたが、乗合バス事業の参入および撤退が緩和される法改正の中で、市内の路線バス（河和田線）が平成13年3月31日に廃止された。

そこで、市民の足の確保（路線バスの代替交通機関）という観点から、「福祉バス」運行システムの規模を拡大し、市民誰もが利用できる「コミュニティバス」として平成13年4月1日から新たにスタートした。直後の平成13年6月には、職員が全コースに乗りこみ、利用者と直接面談しながらコミュニティバスに対する意見・苦情・要望などのアンケート調査を行い、これらのデータを参考にしながら、平成14年4月1日にはコースの細分化による乗車時間の大幅な短縮やワンコインシステムの採用など、運行システムを一新して再スタートした。その後も、さらなる利用者増を図るため、毎年4月には、バス停留所の増加や、路線の一部改良を実施してきた。

また、鯖江市のコミュニティバスは、4台のバスで9路線を走るため、大変過密な運行スケジュールを組まざるを得ない状況となってきた。総体的にはバスの絶対数が不足していると思われ、結果として、利用者が望む時間帯へのダイヤ配分や各路線への乗り継ぎの利便性が充分ではない。このため、平成17年度において、平成13年度から実施してきたコミバスの運行ダイヤや運行形態等について抜本の見直しを検討してきた。

平成18年度からの運行にあたっては、市民ニーズに応えた市民の足として、特に中学生の通学上での安全・安心の確保、通勤・通院・買い物に適した運行時間の確保（JRや福井鉄道との接続強化も含め）など、全地区における利便性の向上を目指し、（全地区の路線を4便から6便ないし8便、河和田線は9便に増便）平成18年4月から新たなシステムのもとで、平成18年度の1年間を社会実験として試行運行してきた。また、試行運行中において、運行路線や運行時間等についての利用者アンケート調査などを実施しながら随時見直し（4月、7月、8月、10月の改正）を図りてきました。

平成19年度鯖江市コミュニティバス運行事業概要

平成18年度1年間を社会実験として運行したコミバス運行事業の利用実績と利用者等の要望・意見・アンケート調査結果をもとに見直しを図り、公共交通運行システムとしての確立を目指す。

運行方針

社会実験を踏まえ、公共交通運行システムとしての確立を目指して「地域に活かされるコミバス」と位置づけ、市民ニーズに応えた市民の足の確保として、特に高齢者に対する足の確保と利便性の向上に重点をおき、一層のコミバス利用の促進を図る。

また、乗用車利用の抑制による環境保護として、さらには福祉施策の充実や商店街の活性化策としても、利用促進を図るとともに「乗ろう、守ろう、みんなのコミバス」をスローガンに「市民参加と協働」のもとで全市的な利用促進運動の展開を進める。

概要

社会実験における利用実績と利用者等の要望・意見をもとに見直しを図り、公共交通運行システムとしての確立を目指す。

社会実験では、特に中学生の安全・安心の確保に重点をおいたが、利用が極めて少ない状況であるため、利用の多い高齢者の利便性向上に主眼をおく。

利用者等の要望・意見の多くが、各路線からの中央線への乗り入れに対するものであるため、バスを中央線まで乗り入れる便を新設し増便する。

利用実績を踏まえたバス台数とすることで、経費の節減が見込めるものの、1台で複数路線を運行するため、各地区同時刻発着のダイヤ編成が困難になる。

利用料金は、1回乗車100円とする。併せて、小学生以下および障害者等は無料とし利用促進を図る。

1日5便を基本に運行する。(河和田線、中央線、丹南高校線を除く路線)

・ 午前2便、昼頃1便、午後2便の計5便の運行

第1便 (午前)	学校、会社(一部)などJR鯖江駅、福武線西鯖江駅・神明駅に	第4便 (午後)	午後の病院、買物などに(帰宅に)
第2便 (午前)	午前の病院、買物などに	第5便 (午後)	学校、会社、病院、買物などからの帰宅に
第3便 (昼頃)	病院、買物などに(帰宅に)		

1 1 路線 7 0 便で運行する。(河和田線、中央線、丹南高校線を除く路線)

社会実験における利用実績を踏まえ、4 便、5 便、6 便の路線を設定

路線名	便数	路線名	便数	路線名	便数	路線名	便数
中央線	19	神明線	5	吉川線	6	河和田線	9
鯖江南線	4	片上・北中山線	6	豊線	5	丹南高校線	2
新横江線	4	立待線	5	中河・北中山線	5	計	70

バス 7 台で運行する。(平成 18 年度の利用実績を基本に経費削減を図る)

低床バス 4 台、貸切バス 2 台、ジャンボタクシー 1 台の 7 台。

利用料金は、1 回乗車 100 円とする。ただし小学生以下の子どもさんや障害者等(身障者および介護者、生活保護受給者、母子家庭等)は無料とする。【H19 新料金システム】 定期券は廃止する。

各路線(河和田線 1 便含む)の便を中央線まで乗り入れる便の新設により利便性を図る。

【要望・意見】

平成 18 年度と比較すると、中央線との乗換えでの便数(32 便)は変更せず維持し、直接相互乗り入れの便を 11 便から 21 便の倍近く新設増便。

他路線への乗継時間の短縮を図る。【要望・意見】

市施設等利用への利便を図る。【要望・意見】

高年大学、丹南高校への運行を図る。【H18 継続】

一部通学・通勤に利用できるよう配慮する(JR 鯖江駅、福武線西鯖江駅・神明駅への乗り入れ)【H18 一部継続】

商店街活性化策として、買物無料券を発行する。【H18 継続】

複数の路線を乗り継ぐ場合の乗継券(無料券)を発行する。【H18 継続】

運行経費縮減のため、朝の便を土日休日運休する。【H18 継続】

高齢者の交通事故防止対策として、65 歳以上の運転免許証返納者に対し 1 年間の無料乗車券を交付【H19 新規】

鯖江市コミュニティバス運行事業の現状について

・近年の利用者の動向、運営の収支と補助金の状況（運行開始から平成19年度まで）

《利用状況》

平成13年度	72,592人	
平成14年度	98,323人(25,731人 35.4%増)	
平成15年度	127,832人(29,509人 30.0%増)	
平成16年度	129,242人(1,410人 1.1%増)	
平成17年度	135,120人(5,878人 4.5%増)	9路線49便
平成18年度	135,136人(16人 0.0%増)	11路線78便
平成19年度	180,000人(予定)	11路線70便

《運行経費》

	支出(A) (委託費)	収入(B) (利用者負担金)	県補助金 (C)	市負担額(=税金 の投入額) (E)=(A)-(B)-(C)	総利用人数 (F)	利用者コスト (E)/(F)
	円	円	円	円	人	円
13年度	57,002,400	7,925,600	19,250,000	29,826,800	72,592	411
14年度	57,002,400	9,644,000	22,000,000	25,358,400	98,323	258
15年度	55,433,617	12,324,000	21,554,000	21,555,617	127,832	169
16年度	56,340,900	12,670,300	21,835,000	21,835,600	129,242	169
17年度	58,805,000	12,994,600	22,000,000	23,810,400	135,120	176
18年度	97,932,000	16,055,200	22,000,000	59,876,800	135,136	443
19年度(見込)	79,000,000	16,000,000	22,000,000	41,000,000	180,000	228

利用者コスト：利用者一人当たりに対する市の負担

(平成19年度以降の事業継続等について)

平成18年度の社会実験を踏まえ、市民ニーズに応えた市民の足の確保として、特に高齢者に対する足の確保と利便性の向上に重点を置き、公共交通運行システムの確立を目指して「地域に活かされるコミバス」と位置づけ、一層のコミバス利用の促進を図る。

また、乗用車利用の抑制による環境保護として、さらには福祉施策の充実や商店街の活性化策としても、利用促進を図るとともに「乗ろう、守ろう、みんなのコミバス」をスローガンに「市民参加と協働」のもとで全市的な利用促進運動の展開を進める。

(コミバスバス停広告事業)

平成18年度よりバス停に市内企業等より広告を募集している。平成19年度は、24社より62箇所62万円(年間1箇所につき1万円)(平成19年7月現在)の支援がある。